

SHINGON HORONIC

色は匂へど II

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 寺子屋 親子で楽しむお香作り

平成十八年弥生

敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花

本居宣長



桜の美しさは格別です

僅か数日で散り 散り際の潔さが心に響きます
日本では移ろい行くものの中に永遠を見い出します
チベット僧侶が寺に来て金箔のはがれた仏像に金箔
を貼つて行つたことがあります

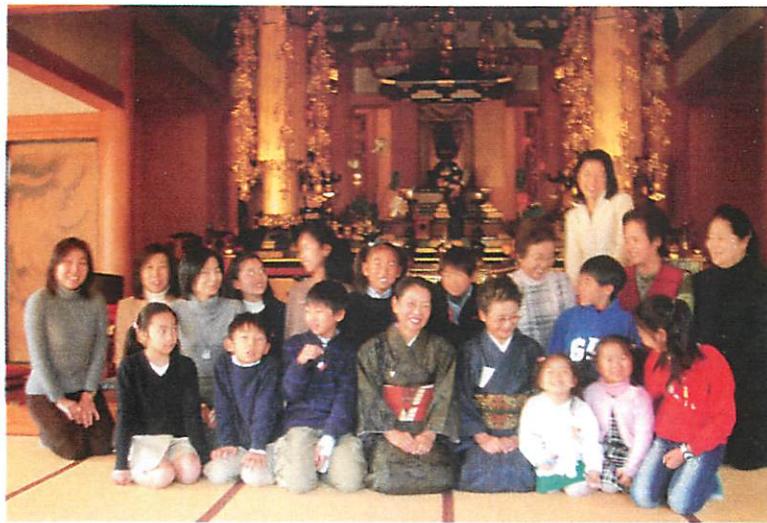
日本では仏像の金箔が剥がれ地肌がむき出しになつ
ても金箔を貼り直すことなく その状態に尊さを感
じます

吉野の桜の衰えが気になるという方がいますが『もの
のあわれ』を感じさせ より人々を惹き付ける今が一
番の見ごろかとも思えます

寺子屋真言童子第三回

親子で楽しむお香作り

3



心の絵ことば 9



道しるべ 分かち合うこと、

分かち合っているということ

11

お大師さまの言葉

茶湯の淡会を設けて

醍醐の淳集を期す

13

情報コーナー



14



寺子屋真言童子

親子で楽しむお香作り

指導 香道古心流 黒須秋桜先生

寺子屋真言童子も三回目になりました。

今回のテーマは『親子で楽しむお香作り』です。実際にはお孫さんと参加された方、友達同士で参加された方もありました。

年齢は四歳から六十代まで、幼稚園生、小学生、中学生、そして親の世代、祖父母の世代まで。この幅広い年代が一つの場を共有できる機会は今ではとても少なくなりました。三世代四世代が同じ場を楽しむだけでも素晴らしい事ですが、寺子屋真言童子には次のテーマがあります。

『創造』『祈り』『感謝』です。

人は何かを作り上げる時必ずその人の美意識が働きます。そして共同作業で何かを創造する時にはお互いの理解が深まり信頼や絆が生まれます。

人は真剣に祈る時に自分の真の姿に触れる事ができます。

また人は感謝の心を常に持てればその人の行いは自然と善きものとなります。



午前十時開会

「お寺では必ず三つのお供えものをします。

それはお花とお灯明とお香です。お花は

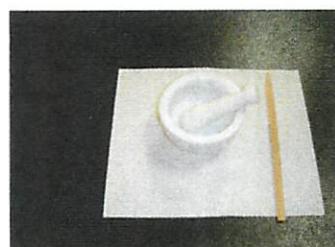
慈しみの心を表し、お灯明は智恵を表します。
お香は努力を表していますが、今この御本堂
にはお香だけ欠けています。それはこれから
皆さんのが作った世界に一つしか無いお香を、
皆さんのお手でお供えして欲しいからです。

その時には自分達だけのお香ができた事を
感謝を込めてお供えしてください。」と住職
から挨拶があり『智山勤行式』を全員でおと
なえしました。

お香作り

「お香は仏教とともに日本にやつてきました。

お香の原料は本来自然のものでとても貴重な
ものです。その自然なものを巧みに組み合わ
せて様々な香りのお香を日本人は創つてきま
した。そして香道というとても雅びな世界が
生まれてきました。今日は皆さん自身がお香
を作つて、そのお香を仏様にお供えして下さ
い。」と黒須先生のお話がありました。



お香の材料を合わせる乳鉢

お香を入れる量はごく僅か 耳かき一杯という
量を合わせていくのでみんな真剣そのもの

調香

お香作りがはじまりました。

お香にはベースが二種類あります。

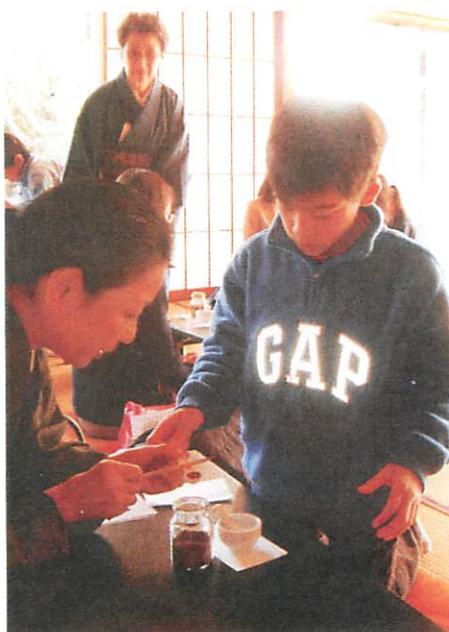
白檀と沈香です。といつても子供達には分かりません。しかし実際にそのお香が自分達の席に回ってくると「あこの匂い知ってる。」といった声があがつたりします。みんな真剣にどちらをベースにするか悩んでいます。

でも悩んでいる暇はありません。

ベースをきめるとさらに六種のお香から好きな香りを選んで調香します。お香を加えるたびにみんな一生懸命嗅いでどんなお香になるかイメージを膨らませます。



加える材料はごくごく僅か。それでも香りが変わってきます。





乳鉢にはそれぞれの思いを込めたお香が調べられました。

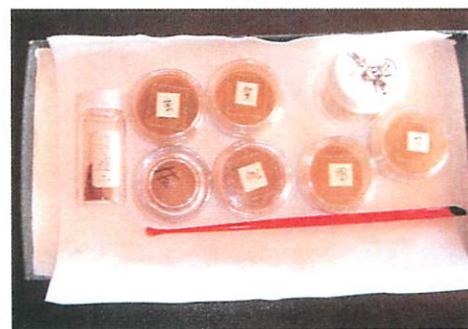
さらに炭を加えていきます。最後にはちみつを加えて練つていきます。はちみつも先生が色々な花のはちみつを用意して下さいました。みんなまた選ぶのに真剣です。

お香を練る加減はどれぐらいでしょうか。耳たぶの固さです。

お香が手の中で丸く形作られていきます。大きなお香ができたり小さなお香ができたりまちまちですがみんな実に楽しように手を動かします。



出来上がった大小の練り香



自然が生み出す貴重なお香の原料



献香と祈り

お香ができると、香炉にたどんを入れます。たどんに火をつけ、灰でおおいお香を焚きます。

いい香りがただよってきます。
みんなの眼が輝きます。

本尊様にま新しい、できたての世界に一つだけのお香をお供えします。

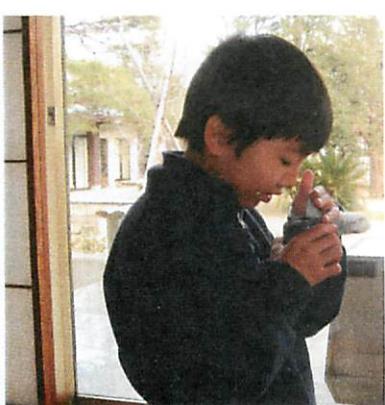
今日、この日の会が出来た事への感謝とそれぞれの願いを込めて祈ります。

祈る姿には美しさがあります。

祈りが終わるとみんなでそのお香を聞きます。
最初は興味が無さそうだった男の子も、楽しそうに自分のお香をみんなにまわしています。

みんなから「いい香りだね。」「なんか優しい匂いだ。」「こんないい香り初めて。」

広い御本堂にお香の香りが豊かに拡がつていきます。



分かち合える豊かなもの

寺子屋によつて三世代が、お香作りという豊かなひとときを分かち合う事ができました。

今世代を超えて共有できるものが少なくなりました。

しかし同じ目的をもつて一つの場を分かち合う事で心に小さな絆が生まれます。

その小さな絆を結び続ける事でやがて豊かな縁がまどかに拡がっていきます。

日本の豊かな文化には世代を超えて学びあい分かち合える素晴らしいものが沢山あります。

お茶でもお花でも音楽でも日本の文化の根幹に必ず感謝の心があります。先祖や自然や同じ時代を生きる人々への。

寺子屋を通してその豊かな心が再発見されました。



ジャータ力物語 おろかな王様

絵 美香

小さくて弱い国がありました。

作物ができるころになると強い国が攻めて来ます
べてを奪つていきました。

若い王は大臣にいました。

「馬を買い集めよ。」

「しかし王様、この国はまづしく馬を買うような
金はありません。」

「國中から年貢をとりたてて金を集めよ。」

大臣は人々からむりむりお金を取り立てまし
た。そして遠い国から馬を買い集めました。

王様は大臣を呼びつけました。

「もう馬には用は無い。捨ててこい。」

「しかし王様、またいつ敵がくるかもしません。」

「もう何年も戦などないわ。馬がいれば金がかかる。馬小
屋も餌も馬飼いにもな。」

大臣はやむをえず、馬を野に放しまし
た。

やがて馬はすっかり野生の馬のよう
になりました。





隣国の王様はその様子をじっと見ていました。馬が野生に戻ると軍隊を率いて攻めてきました。

大臣の知らせで王様はすぐに馬を集めさせました。すっかり戦のしたくをさせて立派な騎馬隊ができました。しかし兵隊がどんなに命じても馬は言うことを听きません。ただ草をもぐもぐ食べるだけでした。

敵にすっかり攻め込まれ国は滅びてしましました。用がなくなつたからといって大切なものを捨ててしまつた王様の大切な国は失われました。

道するべ

分かち合うこと
分かち合っていること

米国のイラク侵攻は石油を求めての事です。

人類が使える水も限られています。

爆発的に増える人口をまかなくための食料は限られています。

士、好き嫌いもあり愛憎があつても、同じ空気を分かち合わなければ生きていません。

地球上の小さなオアシスで

野口さんが船外活動をしました。

漆黒の宇宙に浮かぶ野口さんの姿と地球の美しさが際立っていました。

その地球は暗黒の闇に息づく小さな一つの生命体に思えました。まさに宇宙の銀河系に生まれた奇跡の星です。

その地上では無限の生き物が空気を分かち合い、水を分かち合い、そして生命を分かち合っています。

しかし人類はこの美しい星を何十回も破壊できる程の核兵器を持つています。その数は二十一世紀になります。その減りません。核兵器を持つ国も増えています。

一方で人類が使う自然資源には限りがあります。石油は過去何十年も新しい油田が見つかっていません。

穀物を増産するために地下水が利用

されます。乾燥地帯でも地下水の汲み上げによって一見肥沃な農地が生まれます。インドでもアメリカでも。しかし世界規模で地下水が枯渇しはじめています。

シルクロードを旅した時、天山山脈の南側（天山南路）のオアシスによりました。そのオアシスは山脈からの雨水が何百年、何千年もかけて少しづつ地表に湧き出す水源にあります。美味しい葡萄やハミウリを食べました。

仏教は苦しみを超える教え

最近は国内で凶悪事件が増加して、その刃は弱者や幼い子供達に向かいます。インドでもアメリカでも。しかし世界規模で地下水が枯渇しはじめています。

そしてあきれるほど短絡な考え方です。この人さえいなければ、この子がいるから自分が幸せになれない、だから殺してしまう。

お釈迦様は人生がすべて苦と説きました。生まれる事、老いる事、病む事、死。生、老、病、死の四苦。さらに愛し合う者がいつか別れる苦。憎みあう者が同じ世界にいる事の苦。欲しい物が手に入らない苦。

人生は苦が満ち満ちています。

その苦の原因はどこにあるのでしょうか。

それは心の中の闇から生まれてくるとお釈迦様は説いています。

苦しみの原因を他に求めて、あれが手に入れば幸せになるとか、あいつがいなければ自分は幸せになれる、だから殺してしまう、ということではあらたな罪を作り、さらに深くつらい苦の原因を増やすだけです。

お釈迦様はそうした苦としつかり向き合いながら己の中にある苦の根本原因を明らかに観ることを説いています。

あなたは不治の病です、と医者から宣告されればだれでも驚き動搖し悩みます。しかしその苦しみと向き合うことでしか、苦を超える事はできません。

そんな時に相談できる家族や友人、仲間がいれば苦しみは格段に減らす事ができます。

苦しみや悩みも分かち合えます。

もし自分の悩みや苦しみを相談できます。

きる人が一人でもいれば立ち直る事ができます。信頼できる友が三人以上いればあなたは素晴らしい人生を送れるはずです。もし十人以上有形無形にあなたを支える人を数えることができれば、実際にあなたを支える人の数はその数十倍になります。

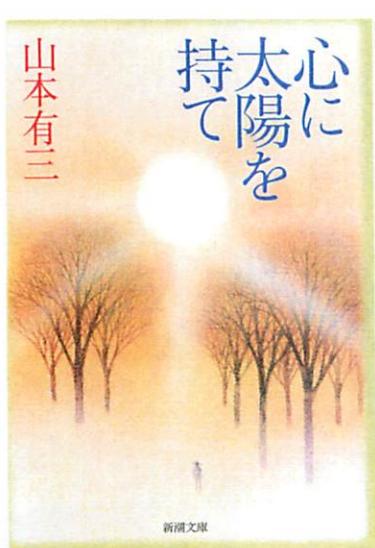
人は苦しみや逆境や困難な時にその人の真の姿が見えてきます。
すべてを社会や他者のせいにして自暴自棄になつて他者を排除したり殺めたりする者。

逆にその困難な場や時を少しでも良い方向にする努力をする者。

あります。

世界中の古典や戯曲にも人生を生き抜く智慧が溢れています。古典や伝統芸能には実は人を犯罪に走らせない心

のセーフティーネットがあります。
情報の共有も大事ですが最近の微に入り細にわたる感情的なマスコミ報道は、古典とは逆に犯罪を伝染させてしまった事が多々あると思いません。



『心に太陽を持て』 山本有三

新潮文庫

お大師さまの言葉

茶湯の淡会を設け 醍醐の淳集を期す

お大師さまの時代からお茶がありました。もちろん今この茶会とは異なりますが、お大師さまが一椀の茶に心を和ませていた文章も残っています。

この文は元興寺の護命僧正の八十歳のお祝いの茶会をお大師さまが設けられた時のものです。

今百歳の元気な方の写真を拝見すると神々しさが感じられます。寿命の短かった千二百年も前での八十歳の高徳の僧正の姿には圧倒的な神々しさがイメージされます。

お大師さまは護命僧正は二美を兼ね備え、教えを乞う者が遠近雲のごとく集まり、心に悩む人々が老若霧のごとくに慕い集まる所と描きます。

二美とは福徳と智恵です。この二美を供え人に接すれば、周りの人人が幸せになれます。

お大師さまは九月に護命僧正のために自ら茶会を設けました。



『綺麗さびの茶』

小堀宗慶 小堀宗実

小学館

遠州流の八十才を超えた宗慶大宗匠と現家元が、茶の湯の美学を語り合う美しい一冊。

淡会とはささやかな、しかし真心のこもった会と言う意味です。

醍醐とは最上の味覚の事です。淳集とは心を込めて集めると言う意味です。

ささやかで真心がこもり最上の味覚を集めもてなす茶会であった事がこの短い文章からわかります。

利休居士が極めようとした茶の湯の精神と深く響きあう一文です。

二美が日本の本来の美意識の原点になれば、未来の日本は素晴らしい文化国家となれます。



歌劇『救われたアンドロメダ』

アンドレア・マルコン指揮

ヴェニス・ヴァロック・オーケストラ

音楽の友誌が選ぶ昨年のベストコンサートで2位がこのアンドレア・マルコン指揮の『救われたアンドロメダ』でした。マルコンとヴェニス・ヴァロック・オーケストラは、失われた作品の発掘と蘇演をライフワークにしています。この歌劇はヴィヴァルディの未発見のオペラです。その世界初全曲録音のCDです。

実にのびやかで美しいヴァロックオペラが現代に蘇ります。



『パリジェンヌの着物はじめ』

マニグリエ真矢著 ダイヤモンド

ある会で隣に和服を美しく着こなす西洋人がいました。立ち居振る舞いも板についていて、幼少から日本にいる方だと思いました。

実際には日本に来てから着物を着るようになったそうです。着物が少しずつ見直され着る人も多くなってきて嬉しい限りですが、本書を通してさらに多くの方が着物に興味を持ちそして実際に着られるようになればと思います。

着物を着たいという人の良き指南書です。

著者は美しく着こなしたいということで日本舞踊まで習いました。その稽古は行儀や作法を学ぶ場でもあることも発見されています。



『聴覚障害者への統合的アプローチ』

村瀬嘉代子著 日本評論社

村瀬先生の最新刊です。重複聴覚障害を持つ人々との交流はどのようにすれば可能なのか。

村瀬先生はお互いの似顔絵を書く事から交流を始めました。その似顔絵がすべてカラーで紹介されています。

一枚一枚の絵に何かを伝えたいという思いに溢れています。

本書を読むと人と人が理解しあえるのは、言葉や文字ではなく何よりも伝えたい、相手を理解しようという心そのものだとわかります。

それは今の社会ですべての人に最も必要なそして最も大切な心の基本だと思います。



次号 特集 美山の朝茶事

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI Editorial Staff/ SAMURO MIWA SHU TACHIBANA

EDITORIAL OFFICE CHOEN-JI S.H.C Making Mechanic Printing KORINKAKU

〒157-0076 東京都世田谷区岡本 1-20-1 電話 03-3707-1228 ファクシミリ 03-3707-1221